

アフロディア

石正美術館 ミュージアムニュース
SEKISHO ART MUSEUM
MUSEUM NEWS
Autumn 2016

No.
130

美への感動と共に生きた「魂の軌跡」



「二人の踊子」 1972 (昭和47) 年

没後一年回顧展「石本正一魂の軌跡ー」(前期)は12月23日(金・祝)まで

SEKISHO ART MUSEUM
The 15th
ANNIVERSARY

没後一年
回顧展

石本正の軌跡



石本正は、大正九年七月三日に島根県那賀郡岡見村（現浜田市三隅町岡見）に生まれました。生涯、何ものにもとらわれず、自由で独創的な創作姿勢を貫いてきた彼は、この故郷での経験や記憶が、生涯ずっと絵を描き続けた原点であると、後に語っています。

豊かな自然に囲まれた田舎町ではありましたが、福岡に住む実業家のおじの影響もあって、当時としては珍しいレコードを聴いたり、おじの家の書庫に入つて本を読むなどして、幼い頃からその後の彼の画業に大きく影響する音楽や文学の素地を身に着け、また反面、山や海、川などで生き物を相手に遊びまわる活発な面もありました。

一九二七（昭和二）年に入学した岡見尋常小学校においては、絵に興味を持つきっかけを与えてくれた先生達との出会いがありました。その後島根県立浜田中学校（現浜田高校）に通うようになると、おじがプレゼントしてくれた油絵の具を使って人知れず独自に油絵を描いたりもしていました。そして好きな音楽や文学で心の中をいっぱいにして、憧れや夢を描く少年時代を過ごしました。

この頃は、自分が絵の道を進み、やがて現代日本画壇をけん引する代表的な作家になっていくとは夢にも思っていなかつたことでしょう。この度の没後一年回顧展「石本正魂の軌跡」では、その彼が歩んだ画業七十五年余りの道のりを、代表作と共に時系列でご紹介します。

2016年

2017年

10月8日（土）～3月12日（日）

【前期】2016年10月8日（土）～12月23日（金・祝）

【後期】2017年1月2日（月・祝）～3月12日（日）

【開館時間】午前9時～午後5時

【休館日】毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）※年末年始休館12月24日（土）～1月1日（日・祝）

※1月3日（火）は臨時開館

【観覧料】◎一般／800（700）円 ◎高校・大学生／300（240）円 ◎小・中学生／200（160）円

※（ ）内は20名以上の団体料金

※「しまね家庭の日」毎月第3日曜日に家族で来館された高校生以下の観覧無料

【前売券】一般／600円・販売所＝ローソン各店（Lコード63174）、山陰中央新報社（松江本社、西部本社、益田総局）

中国新聞社読者広報部、中国新聞各販売所（取り寄せ）

【主催】浜田市立石正美術館、浜田市、浜田市教育委員会、公益財団法人浜田市教育文化振興事業団

山陰中央新報社、中国新聞社

【特別協力】島根県立美術館、京都市美術館、山種美術館、紫泉堂ギャラリー

画学生の頃



図①「軍鶏」1941（昭和 16）年 ※前期のみ展示

一九三八（昭和十三）年に十八歳で島根県立浜田中学校を卒業した後、一九四〇（昭和十五）年に京都市立絵画専門学校（現京都市立芸術大学）日本画科予科に入学しました。学校には、当時の京都画壇の著名な画家が教師として在籍し、その指導を受けた先輩たちの絵もたくさん観ることができました。それらの絵は京都円山四条派の高い技術指導に基づき描かれていましたが、彼の目には絵画として魅力的にうつらなかつたそうです。やがて、伝統的な形式にしばられた授業に窮屈さを感じるようになつた彼は、デッサンを学ぶ場所を求め、昼は関西美術院、夜は関西日仏学館へ通うようになりました。入学したものがあまり学校には行きませんでしたが、二回生進級時に自己流で制作した「軍鶏」（図①）は教授・三宅鳳白氏に褒められたといいます。自由に我が道を求める青春を謳歌しながら彼の画学生としての時間は過ぎていきました。しかし第二次世界大戦末期という時代の流れの中、四回生（本科二回生）時の一九四四（昭和十九）年九月二十九日付で繰上げ卒業となり、学徒動員によつて気象第一連隊に配属され中国へ渡りました。ここでも時間があれば兵隊をモデルにデッサンを描き続けていたと、後に語っています。そして現地にて終戦を迎えた。

画家としてのはじまり



図②「風景」1948（昭和 23）年／京都市美術館蔵／第4回京都市美術展覧会
※後期のみ展示

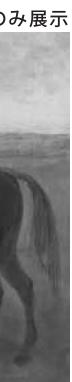


「高雄口」1948（昭和 23）年※後期のみ展示

一九四六（昭和二十一年）年に中国から復員して京都へ戻り、高等学校の教員をしながら制作を続けていました。給料は安く暮らしは豊かとはいえないでしたが、絵を描くための時間をできるだけ取らせてほしいという希望に対しても、当時の校長が親身になつてくれた事がとどもありがたかったです。学校の教え子をモデルにデッサンをしたこともあります。

やがて一九四七（昭和二十二）年の《第三回日本美術展覧会（日展）》に「三人の少女」が初入選し、この作品を画家・福田平八郎氏（一八九二～一九七四）が激賞しました。これが彼の名が初めて世に出た瞬間でした。

その後、翌年の《第四回京都市美術展覧会》に出品した「風景」（図②）が市長賞第一席を受賞し京都市美術館買上げとなりました。京都を拠点に画家として歩み始めた彼にとって、初の受賞となつたこの作品は、画家としてのはじまりともいえる記念すべきものでもありました。その後の日本美術展覧会には第四回展に「少女（野辺に）」、第五回展には「馬」（図③）が入選し、順調に作品発表を続けました。



図③「馬」1949（昭和 24）年／第5回日本美術展覧会
※前期のみ展示

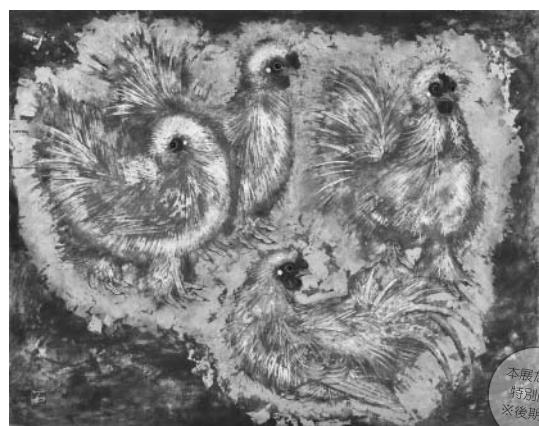
▶上：「旅へのいざない」1951（昭和26）年
『第15回新制作協会展』ではじめて新作家賞を受賞した作品。
下：「鳥骨鶴」1960（昭和35）年／個人蔵 ※後期のみ展示



新進気鋭の画家として

戦後まもない当時は、様々な社会環境や価値観が変わつてゆく激動の時代でした。日本画壇においても、それまでの伝統を留めた封建的な体質から抜け出そうと、多くの画家が新しい表現を求めて模索し始めていました。この中には、古来の芸術が持つ「美」を現代の自分の生活感情と調和させた独自の日本画を生みだすことを理想として歩み始めました。そして日本だけではなく、中世ヨーロッパ芸術などにも幅広い視野を持つて、そのイメージを作品の中に積極的に取り入れていきました。

一九五〇（昭和二十五）年に、母校である京都市立美術大学（二の年に改称）の助手となりました。同年、当時助教授だった画家・秋野不矩氏（一九〇八～一九〇一）にすすめられ、日本絵画の革新を掲げて創立された『創造美術』の第三回展に「五条坂風景」「踊子」の二点を出品しました。翌年に『創造美術』と新制作派協会が合同して発足した『新制作協会展』に出品するようになると、新作家賞を立て続けに受賞します。三十六歳のときには同会の会員に推举され、独特的の技法で描かれた鳥の連作や舞妓裸婦など、次々に発表される彼の斬新な作品は着実に世間の注目を集めるように発表されました。



本展だけの
特別展示
※後期のみ

轟会（とどろきかい）

石本正を一躍画壇の注目作家に押し上げた転機のひとつとして、村越画廊の村越伸氏（むらこしのぶる／一九二二～二〇〇五）の尽力によって発足した展覧会『轟会』（一九五九（昭和三十四）年発足）が挙げられます。メンバーは、当時新進作家として注目され始めた石本正・加山又造（一九一七～一九〇四）・横山操（一九二〇～一九七三）の三作家でした。山越氏は、十四歳の時に古美術商の丁稚奉公に入つて以来、人生のすべてを美術業界に投じた人物です。一九五六（昭和三十一）年、三十四歳のときに画商として独立し、日本画の扱いを中心とする村越画廊を設立しました。その後、己の眼を信じ多くの作家を世に輩出してきた彼が、独立してまもなく全てを賭けて立ち上げた展覧会が『轟会』でした。

彼の眼によつて集められた三人が、このグループ展の旗揚げのために集合した時の様子を、著書『眼、一筋』（中公文庫）で次のように語っています。
「話は盛り上がつた。全員、四十歳に充たぬ血氣盛んな世代である。動の横山に対して、石本・加山は静かな闘志をかきたてた。会話の歎息に何とも言えぬ小気味よさがあつた。

私もみんなの熱気に興奮した。血が騒いでくるのが自分でもよくわかつた。私はいよいよ、切り札ともいふべきよさがあつた。

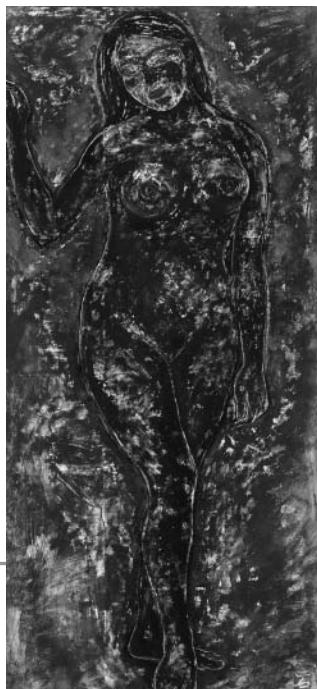
うべき一つのプランを提示した。出品作を飾る額に、業界でも一目置かれる岡村多聞堂の額を使用し、パンフレットも今までにない大判のカラー印刷にするところ上げたのである。

画家に支払う画料よりも高い額代、斬新で贅沢なパンフレット。彼がこの若い画家たちにかける意気込みは、業界からは当初かなり冷ややかに見られていたようですが、こうして始まつた轟会でしたが、第一回に出品した石本の『横臥舞妓』が、『見事な失敗作』といふ見出しの厳しい批評が凶版つきで全国紙に載るなり、風当たりの強いスタートでした（図④）。しかし、それが毎年意欲的な力作を出品し続けたことに加え、それぞれの画壇における進歩もありまつて、次第に広く世間の注目を集める展覧会となつていきました。第七回からは平山郁夫（一九三〇～一九〇九）が加わり、創立十周年を迎えるころには、開店時間前からコレクターが列をなして並ぶまでになつていたそうです。



図④朝日新聞／1959（昭和34）年12月19日

村越氏はこの轟会について、「私の自惚れかもしれないが、新世代の作家の台頭をいや応なく印象づけたのが『轟会』であつたと思う」という言葉を残しています。



▶「裸婦」1962（昭和37）年／第3回轟会

石本正の舞妓

内的世界を表現した石本芸術を象徴する作品として広く世間に知られているのが、壮年期に誕生した舞妓シリーズです。

彼は、多くの画家が描いてきた古典的かつ日本的な舞妓をモチーフにして、ただ斬新で現代的な舞妓作品を生み出そうとしたのではありませんでした。日本古来の絵画や仏像、あるいはヨーロッパのロマネスク時代の壁画など、『古典芸術の美』に感動し憧れを抱き続ける彼が、それらを糧とし、現代の自分に置き換えて独自の表現で書き上げたのが『石本正の舞妓』でした。

こうして生み出される舞妓像は多くの人々の心に感動を与え、やがて一九七一（昭和四十六）年には、『在来日本画の常識を破る人体のリアリティーの追求により、日本画における裸婦の表現に一エポックを画した』として第二十一回芸術選奨文部大臣賞（美術部門）と第三回日本芸術大賞（新潮文芸振興会）を受賞しました。しかしその後の全ての賞を辞退し、地位や名誉をもとめない姿勢を貫きました。



「横臥舞妓」1968（昭和43）年／第32回新制作協会展 ※前期のみ展示

ボッティイ・エルリの『春』は、石本が大好きだった絵で、中でも特に画面中央で踊る三美神の姿に強く惹かれました。この作品は、その三美神を自分なりに解釈し、舞妓で表現を試みた作品。背景には木立の風景が描かれています。この前年に開催された風景作品の個展の際に自ら目標とした「ボッティイ・エルリの作品のように人物と風景の統合された構成」がなされ、見事に調和した画面となっています。



「横臥舞妓」1967（昭和42）年
第31回新制作協会展

日本画に描かれる舞妓といえば、白粉で化粧して美しく着飾った姿をはんなりと描く、どこか“きれいごと”的絵画が多い中で、石本はその舞妓の装飾性の象徴である着物を排除し、日本髪とかんざし、白粉のみを残した裸の姿を描きました。普段は着物で隠れている白粉と素肌の境界は、女としての色香を一層強く漂わせ、重量感さえ感じる身体の表現は、現実の女性を見るよりもリアルに血の通った肉体を思わせます。肉体表現のリアリティーを追求し、彼女達の人間性や内面性まで迫ろうとしているようです。

あまり広く知られてはいませんが、晩年の川端康成（一八九〇～一九七二）と石本は親しい付き合いがありました。年は二十一歳離れていましたが、川端は京都に行くと必ず石本のアトリエに寄り、ときには一緒に祇園へ遊びに出かけて、色々と語り合うこともあつたそうです。川端は、石本の官能的な女性美を高く評価していました。また石本は、川端小説の『はかなぐ哀愁をおびた美しい女たち』の姿が、自らが表現したいと願う世界に共通していると感じていました。互いの芸術性に惹かれ合い、二人の間には親交がありました。一九七一（昭和四十六）年には、『在来日本画の常識を破る人体のリアリティーの追求により、日本画における裸婦の表現に一エポックを画した』として第三回芸術選奨文部大臣賞（美術部門）と第三回日本芸術大賞（新潮文芸振興会）を受賞しました。しかしその後の全ての賞を辞退し、地位や名誉をもとめない姿勢を貫きました。

図⑤「二人の踊子」1972（昭和47）年
個展「人物画展」（彩壺堂）出品
※前期のみ展示



と「いよいよ石本観音ができますね」とおっしゃつて凝つと見つめておられたが、その姿がありありと目に浮かぶ。亡くなる三ヶ月前の事だった』（画家の言葉「芸術新潮」一九七三年二月号）川端康成が自死によつてこの世を去つた数か月後、東京の彩壺堂サロンで個展「人物画展」が開催され、舞妓作品を中心とする十一点の新作が並びました。「一人の踊子」（図⑤）はこの時に発表された作品で、『上に描かれた女が「雪国」の駒子、下の女が「伊豆の踊子」のイメージと重なる』と評されました。この時自身でも、『こんどの話題となつた作品です。この時自身でも、『こんどこの個展の作品では、自分でも知らないうちに先生の作品を追つていることに気がつきます。先生への鎮魂の思いが動いていることはいなめません』（週刊朝日／一九七一（昭和四十七）年）と語っています。

次号へ続きます。

川端康成と石本正

石
本

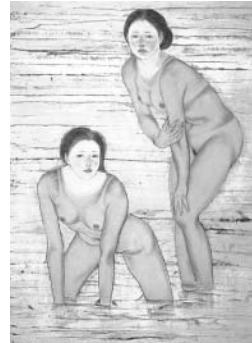
正
魂の軌跡

後期

平成
29年
1月2日(月)～3月12日(日)



「風景」1948年／京都市美術館蔵



「干潟」1976年／島根県立美術館蔵



「フラミンゴ」1986年／個人蔵



「舞妓」1968年



「舞妓」1966年

特別美術講座

「音楽とフレスコ画でひもとく、 石本正先生・共感覚の世界」

石本正は若い頃から、中世ヨーロッパ時代のフレスコ画の美しさと精神性に深い憧れを抱き続け、作品の中にそのイメージを重ねて描いていました。このたび、石本正の教え子であり、石本発案によるイタリアのフレスコ画模写事業（1975年）に携わった美術家・藤本直司氏に、画家が感じていた中世やルネサンスなどのヨーロッパ美術の美について詳しくお話し頂きます。また午後には、フレスコ画を模写制作する簡単な創作体験も行います。ぜひご参加ください。

講師 藤本直司先生（美術家）

日時 1月14日（土）

《講演》9：30～12：00

《フレスコ画模写体験》13：00～15：30

定員：25名（要予約）

参加料：1,000円

※講演会のみ（無料）のご参加も可能です。ご相談ください。

※模写体験は、和紙や日本画の絵具を使って、フレスコ技法を疑似体験する簡単な内容です。初心者の方もぜひご参加下さい。



「聖母子像 (部分)」(14世紀)
サンタ・キアラ寺院 (アッシジ)
※参考画像

第52回石本正絵画教室

石正美術館では、石本正の希望によって、絵の技術ではなく「絵の心」を伝える教室が生まれました。「気軽に、楽しんで」という石本の絵に対する姿勢や喜びを、参加者の皆様と共に楽しむ教室です。絵を描くのが好きという方はもちろん、初心者の方もお気軽にご参加ください。特別講師として、第51回に引き続き、日本画家・池田知嘉子先生にご参加いただきます。



日時 3月4日（土）・5日（日）

内容：裸婦デッサン

定員：30名（要予約）

参加料：7,500円

予約開始日：2月11日（祝）午前9時～

※1日目午前中は、学芸員による美術講座を行います。

12/10(土)～12/23(祝)

9:00～17:00 入場無料

【夜間開館日】会期中の土日祝日（20:00まで）

【休館日】月曜日

【会場】屋内展示：ギャラリー（終日）

屋外展示：回廊・中庭・前庭（土日祝の夜のみ点灯）

「祈りのキャンドル」に火を灯しませんか？

11/20 に大田市の三谷信介さんを講師にお招きし、「みんなでつくる手作りキャンドル！」のワークショップで制作した「祈りのキャンドル」。夜間開館の5日間、その他の屋外展示作品とあわせ約500個のキャンドルに火を灯していただける方を募集します。

ご協力いただいた方には、展示室の作品を観ながら、石本先生がふるさとへのこした想いをご紹介します。どうぞ暖かい格好でご参加ください。

12 December

10	11	17	18	23
㊱	㊲	㊳	㊴	㊗



17時点火スタート！
着火ライターはこちら
でご用意します。

土日祝限定
「夜間開館」
「ライトアップ」
20:00まで

展示室も観覧できます（観覧料が必要）



一年で一番日の短い冬至の季節に、光の持つぬくもりや魅力を感じてもらいたい。そんな思いで開催してきた「いわみの冬至祭 光の回廊」。開館15周年の今年は、リニューアルしたばかりの屋外をメインスペースに開催します。美術館入口には、市内各所から集められた廃口ウソクを再利用して、美術館サポーター一般参加者の方々が制作した「祈りのキャンドル」がお客様を出迎えます。

身近な光が、この期間美術館ではアートに変わります。ぜひ夜の美術館で素敵なお時間を過ごしてみませんか？

なお、期間中の土日祝日は20時まで夜間営業し、建物のライトアップをします。関連イベントも多数開催しますので、ぜひ夜の美術館にお越しください！



★最新情報は 石正美術館 検索 「浜田市立石正美術館」で検索！

光の回廊関連イベント

光の回廊コンサート

温かな灯りのもと、しっとりと心に響く歌声をお楽しみください。



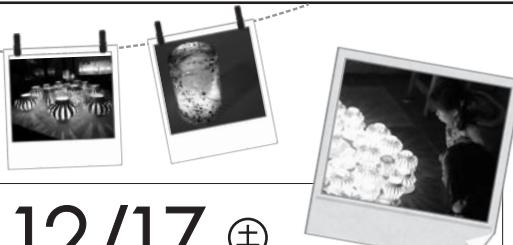
【出演】ブーフー
BOOHOOWOO
山口～益田を中心に活動するバンド



12/10 土 18:00～19:00

会場：石正美術館 創作室

入場
無料



12/17 土

18:00～20:00 集合場所：石正美術館 創作室

会場：石正美術館 屋外・屋内（展示室除く）

参加費：1,500円（2L判1枚のプリント代込）

受講定員：10名（予約可） 講師：安立誠さん

持ち物：デジタルカメラ、SDカード、防寒具

光の魅力いっぱい！
ナイトミュージアム写真教室



三隅の星を観る会

光の回廊 星空観察会

～冬の星空発見～

【星空観察】

- ・冬の星座
- ・金星・火星の天体望遠鏡による観察
- ・プレアデス星団（すばる）の双眼鏡による観察



12/11 日 18:30～19:30

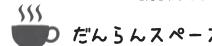
参加無料（要予約）※雨天中止
会場：石正美術館 前庭アプローチ

タイムスケジュール

18:00～18:40 事前レクチャー・自由撮影

18:40～ 個別講評・写真プリント（随時）
(会場：創作室)

↓
講評終了後、自由解散



だんらんスペース

講評の順番をお待ちの間おくつろぎいただけないように
温かい飲み物とお菓子をご用意します（^-^）
コマや羽子板・折り紙などで遊べるスペースもあるので、
お子様連れの方もお気軽にどうぞ♪

学芸員の 部屋

創作のよろこび

学芸員 上田 優里

「絵手紙教室～暑中見舞い～」(2016.7.16)



地域に根ざす美術館として、アートを通して生き生きとした生活を送るお手伝いができればと、昨年5月から開催してきた『月イチ創作教室 おとのアートサロン』。おかげさまでこれまでに135名あまりの方々にご参加いただき、次回で20回目を迎えます。

これまでの『おとのアートサロン』を振り返って、私が印象深く感じたのは参加者の皆さんの表情でした。

作品の出来上がりをイメージしていました。

そうかと思えば、時折「この作品のここが素敵!」「この色きれい!」と笑顔でお話しながら交流される姿も。同じひと時を共に過ごし、ものを作る楽しさを参加者同士で共有する。一人で制作している時にはない喜びがここにはあります。

性質の異なる二つのよろこび。けれどどちらもこのワークショップで感じるこのできる「創作のよろこび」です。

ながら描いている時や作業に没頭している時は、皆さん声をかけるのをためらうほど真剣な顔をしておられます。ひたむきに作品を見つめる瞳は熱を帯び、「創作のよろこび」を心と体いっぱいに感じておられるのが伝わってきました。室内には、静かに流れるBGMと制作時に出るかすかな作業音だけが響いていました。

「絵をかくことは生きるよろこび」と語り、95歳でお亡くなりになるまで生き生きと創作を続けられた石本正先生。石正美術館では開館以来、こうした先生の創作姿勢を伝えるとともに、ものづくりの楽しさを伝える館でありたいと様々な創作活動を行ってきました。

昨年度は毎月第二木曜日に行ってきた『おとのアートサロン』も、今年は平日にお勤めの方やお子様連れの方にもご参加いただきやすいように土日祝日にも開催することとしました。

幅広い層の方々に、石正美術館とその取り組みについて知つていただき、「創作のよろこび」を感じてもらいたい。石本先生の美術館から、これからも伝えていきたいと思います。



「古布ネックレス・ほおづきひなセット作り」(2016.4.15)



臨床美術「心いきいき！～絵本パレード～」(2016.8.21)

『ご予約先』 0855 (32) 4388 (石正美術館)

【石正美術館 月イチ創作教室】

おとののアートサロン

午後1時～3時 石正美術館 創作室

12/1
(木)

「お正月のポチ袋・ 祝箸袋をつくろう」

講師：坂口みどりさん（日本絵手紙協会公認講師）

参加費 300円 定員20名（要予約）



ご好評につき今年も開催！お正月に使うポチ袋や祝箸袋を手作りして、楽しく早めにお正月準備をしませんか？

2/25
(土)

「モザイクアート」

講師：イラストレーターKUBORIM
(久保利美加さん)

参加費1,800円 定員10名（要予約）



かわいい焼き物パーツ（タイル）を使ったモザイクアートが体験できます。どちらか好きな方を選んで作れます。

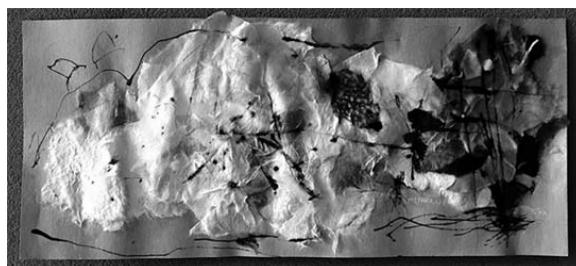
- ①ミニトレー…お茶菓子などを載せて素敵におもてなしできる小さなお盆です♪
- ②コースター（ミニ花台）…花瓶敷きや鉢置き・鍋敷きとしても活躍します！

1/21
(土)

「心いきいき！ ～大根のちぎり絵～」

講師：島根臨床美術の会

参加費2,000円 定員20名（要予約）



五感を使った新感覚アート・臨床美術の手法を取り入れた創作教室です。「絵を描くのは久しぶり」という方も大歓迎！旬の味覚、葉つき大根の迫力を和紙で表現してみませんか？

3/9
(木)

「心いきいき！ ～春の山を描く～」

講師：島根臨床美術の会

参加費2,000円 定員20名（要予約）



五感を使った新感覚アート・臨床美術の手法を取り入れた創作教室です。「絵を描くのは久しぶり」という方も大歓迎！

春の山並みや空気をイメージして想像力を働かせながら表現してみませんか？出来上がった作品は春を感じるインテリアとしても素敵です。

ご予約・お問合わせ

浜田市立 石正美術館 TEL 0855-32-4388

ギャラリー展示

Dear 江戸猫さん・ 福美招き猫展

11.26 土
→ 12.7 水

9時～17時
月曜休館
※最終日は15時まで



三隅町在住の土人形作家・福美さんの作品展です。江戸時代に作られた土人形への敬愛を表して制作された招き猫などを展示します。商売繁盛、金錢運、幸運な出会いを招き入れる招き猫に逢いに是非ご来館ください。来館された皆様にいいお縁がめぐってきますように！

招き猫絵付け体験

12.3 土 13時～16時

講師：福美さん（土人形作家）

参加費 500円
先着20名



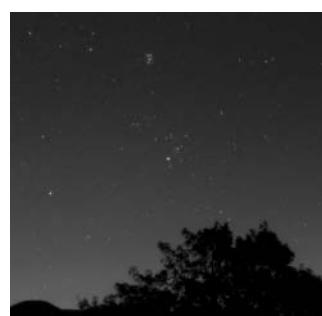
ギャラリーにて個展開催中の福美さんが指導する体験教室です。未経験の方も大歓迎。あなた好みの招き猫がつくれるかも？

パフォーマンス

三隅の星を観る会 光の回廊 星空観察会 ~冬の星空発見~

12.11 日 18時30分～19時30分

参加費 無料 雨天中止
要申込み



天体望遠鏡や双眼鏡で冬の夜空を見上げてみませんか！火星や金星などの惑星や、「すばる」（プレアデス星団）、冬の星座を観察。

暖かい服装でお越しください！

創作教室

昔ながらのお正月の遊び

石州和紙で 凧作りに挑戦！

1.7 土 13時～15時

材料費 500円
要申込み【定員】30名



毎年恒例の「昔ながらのお正月のあそび」を開催します。今年も石州和紙を素材に凧作りに挑戦します。自分だけの凧を作りするところから楽しみませんか？

出来上がった凧は、みんなで揚げて遊びましょう。お正月の美術館へご家族そろってお越しください。

ギャラリー展示

大賀務 &教室作品展

11.19 土
→ 11.25 金

入場
無料

9時～17時
月曜休館
※最終日は15時まで



益田市在住の大賀務（つとめ）さんは、古布に魅せられて20年になります。「日本古来の伝統美、古布遊び、染と織り、色と彩、さまざまな古布を集めて新たな命を吹き込む」を謳い文句に多数作品展示を行ってきました。

古布と着物や帯布、布団などを取り出しては想いを膨らませ、次々に浮かんでくるアイデアに試行錯誤しながら作品を創ってきました。

古布に出会って魅せられた大賀務さんと、教室の生徒さんの作品が並びます。是非、会場へお越しいただき作品をご覧下さい。

創作教室

古布で布ぞうりをつくろう

1.28 土 13時～16時

材料費 500円
要申込み【定員】10名

※浴衣1着分くらいの古布（綿）
があればご用意ください。
布持参の方は材料費100円。



毎回大人気の「古布で布ぞうりをつくろう」を開催します。着古した浴衣などの古布を細く裂き、両手両足を使ってぞうりの形に編んでいきます。古布が有効活用できるし、履けば気持ちいいし、洗えるし、床掃除もできちゃう、といいことづくめです。自分で作ったオリジナルの布ぞうりで、毎日気持ちよく過ごしましょう！

講師は三隅町室谷の古森トシ子さんとそのお仲間です。ふるってご参加ください！！なお定員に達し次第締め切らせていただきます。お早目にお申込みください。



SCHEDULE

石正美術館スケジュール

本館 展示室	新館 展示室	ギャラリー 【入場無料】	ミュージアムパフォーマンス・創作教室
石本正 魂の軌跡 <small>【前期】</small> 10.8 土 ↓ 12.23 金・祝	没後一年回顧展	11.19 土 ↓ 11.25 金 11.26 土 ↓ 12.7 水 12.10 土 ↓ 12.23 金・祝 <small>夜間開館日 10日(土)、11日(日)、17日(土)、18日(日)、23日(金・祝)</small>	大賀務&教室作品展 <small>主催: 大賀務さん 最終日 11.25は15時まで</small> Dear 江戸猫さん・福美招き猫展 <small>主催: 福美さん (土人形作家) 最終日 12.7は15時まで</small> いわみの冬至祭 光の回廊 2016 <small>~光の庭園~ 会場: ギャラリー・回廊・中庭・前庭</small>
			12.1 木 13時~15時 12.3 土 13時~16時 12.10 土 18時~19時 12.11 日 18時30分~19時30分 12.17 土 18時~20時
			<small>おとなのアートサロン 「お正月のポチ袋・祝箸袋をつくろう」 講師: 坂口みどりさん (日本絵手紙協会公認講師)</small> <small>参加費 要申込み</small> <small>招き猫絵付け体験 講師: 福美さん (土人形作家)</small> <small>参加費 先着 20名</small> <small>光の回廊コンサート 出演: BOO HOO WOO</small> <small>入場無料</small> <small>三隅の星を観る会 「光の回廊 星空観察会」 ~冬の星空発見~</small> <small>参加無料 要申込み</small> <small>ナイトミュージアム写真教室</small> <small>参加費 要申込み</small>
			12.24 土 → 1.1 日・祝 展示替え・年末年始休館 CLOSED
石本正 魂の軌跡 <small>【後期】</small> 1.2 月・祝 ↓ 3.12 日 <small>臨時開館 1.3 火</small>	没後一年回顧展	1.2 月・祝 ↓ 1.20 金 1.21 土 ↓ 2.3 金 2.17 金 ↓ 2.23 木 2.25 土 ↓ 3.12 日	イタリア巡礼 石本正スケッチ展 (仮) <small>主催: 浜田市立石正美術館 最終日 1.20は15時まで</small> 石見神楽写真展 「カグラージョ 熱視線 vol.2」 <small>主催: カグラージョ写真部 最終日 2.3は15時まで</small> 382 ヒトメボレ <small>主催: KUBORIM(久保利美加さん) 最終日 2.23は15時まで</small> 森山良二作品展 <small>主催: 森山良二さん (陶芸家) 最終日 3.12は15時まで</small>
			1.7 土 13時~15時 1.14 土 13時~15時 1.21 土 13時~15時 1.28 土 13時~16時 2.25 土 13時~15時 3.4 土 13時~15時 3.9 木 13時~15時
			<small>昔ながらのお正月の遊び 石州和紙で凧作りに挑戦!</small> <small>参加費 要申込み</small> <small>特別美術講座 「音楽とフレスコ画でひもとく、石本正先生・共感覚の世界」</small> <small>講師: 藤本直司先生 (美術家)</small> <small>参加費 要申込み</small> <small>おとなのアートサロン 「心いきいき! ~大根のちぎり絵~」</small> <small>講師: 島根臨床美術の会</small> <small>参加費 要申込み</small> <small>古布で布ぞうりをつくろう</small> <small>参加費 要申込み</small> <small>おとなのアートサロン 「モザイクアート」</small> <small>講師: イラストレーター KUBORIM(久保利美加さん)</small> <small>要申込み</small> <small>第52回石本正絵画教室 「裸婦デッサン会」</small> <small>特別講師: 池田知嘉子先生</small> <small>参加費 要申込み</small> <small>おとなのアートサロン 「心いきいき! ~春の山を描く~」</small> <small>講師: 島根臨床美術の会</small> <small>参加費 要申込み</small>
			3.13 月 → 3.24 金 展示替え休館 CLOSED

SEKISHO ART MUSEUM

利用ごあんない

開館時間 9:00~17:00

休館日 月曜日

(月曜が祝日の場合開館・翌日休館)

年末年始

(平成28年12月24日(土)~29年1月1日(日))

展示替え休館

(平成29年3月13日(月)~3月24日(金))

観覧料 展覧会によって異なります。

展覧会情報ページにてご確認ください。

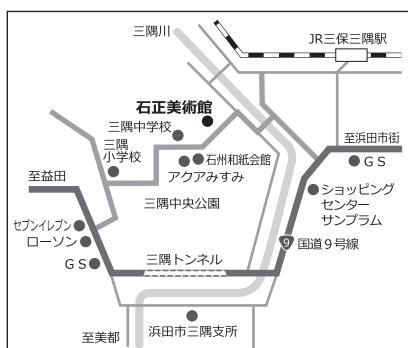
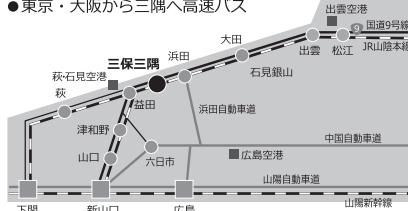
※20名以上は団体料金。

※身体障がい者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳・精神障がい者保健福祉手帳・療養手帳をお持ちの方は半額。介助者は無料です。

※「しまね家庭の日」毎月第3日曜日は「しまね家庭の日」(家族連れの高校生・中学生・小学生は無料)。

石正美術館へのアクセス

- 最寄駅 三保三隅駅から車で5分・ひやこるバス15分
- JR山陰本線 浜田駅から三保三隅駅まで列車で20分
- 広島駅から浜田駅まで高速バスで2時間
- 浜田自動車道 浜田ICより車で30分
- 萩・石見空港から車で40分
- 東京・大阪から三隅へ高速バス



石正美術館 ミュージアムニュース

アフロディア

No.130

Autumn 2016

平成28(2016)年11月23日発行

編集・発行 浜田市立石正美術館

〒699-3225 島根県浜田市三隅町古市場 589

TEL 0855-32-4388 FAX 0855-32-4389

Eメール sekisho@mx.miracle.ne.jp

<http://www.sekisho-art-museum.jp/>

石正美術館 検索

f 「浜田市立石正美術館」で検索



購入日から一年間、美術館主催の展覧会が何度でもご覧いただける大変お得なパスポート。

今回、二つの特典を新たに追加して「アフロディア」!

① 更新ごとに絵柄が変わります!

今まで四種類の絵柄から選んでいただけでしたが、更新ごとに絵柄が変わります。しかも、十年目には「あなたの好きな石本正作品」で年間パスポートをお作りしゃいます。(すでに更新をお済ませの方も新絵柄に差し替える事が出来ます!)

を誘つてみんなでお得!

年間パスポート

(税込)

一般	1,500 円
高校・大学生	1,000 円
小学・中学生	500 円

【パスポート利用にあたっての注意事項】

◆本パスポートでご登録日より1年間、企画展が何度でもご覧いただけます。

◆ご来館時には本パスポートをご提示ください。ご提示がない場合は通常料金を申し受けますのでご注意ください。

◆他人への貸与・譲渡はできません。また返却し、破損・紛失等による再発行はできません。

石正美術館では本館・新館で年4~6回の企画展を開催しています。特別展も含むこれらの展覧会がいつでも鑑賞いただけます。

例えば現在開催中の没後一年回顧展「石本正魂の軌跡」は特別展料金一般800円。大幅に作品を入れ替える前期と後期両方見ると1600円で年間パスポートの方がお得になります。

年間通していくでも販売しています。ご家族やご友人と一緒に購入されることをおすすめします!!

年間パスポートの新特典をご紹介

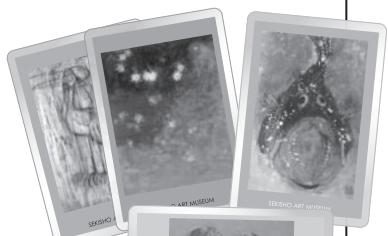
年間パスポートご利用特典

1 有効期間(1年)の間、美術館主催の企画展が何度でも鑑賞できます。

※一部対象外の企画展が開催されることがあります。

さらに

更新のたびに絵柄(作品)が変わります。



2 ミュージアムニュース アフロディアの提供(季刊発行)

※有効期間終了後、3年間はご提供を継続。

3 パートナー割引

同伴者(何名でも!)の観覧料を団体料金に割引

4 提携美術館の観覧料割引

- 今井美術館
- 浜田市世界こども美術館
- 益田市立雪舟の郷記念館
- 杜塾美術館
- 島根県立石見美術館(グラントワ)
- 津和野町立安野光雅美術館
- 島根県立古代出雲歴史博物館

5 講演会・コンサート等のご優待

美術館主催の講演会・コンサート等を優先的にごあんない。

10年目には、「あなたの好きな石本正作品」で年間パスポートをお作りいたします。お楽しみに!!

※画像データがない場合、ご希望に添えないこともございます。

